北相模総守護社
亀ヶ池八幡宮
社報 亀ヶ池
第9号［平成22年7月1日発行］
発行／亀ヶ池八幡宮社務所
〒252-0243
神奈川県相模原市中央区上溝1678
TEL.042-751-1138 FAX.042-757-3811
URL http://www.kamegaike.jp
E-mail：info@kamegaike.jp

祝 政令指定都市 相模原 飛翔

神々が宿る緑深き鎮守の杜

いちょう

平成の市町村合併が全国的に広がりを見る中、旧相模原市と津久井郡四町（城山町・相模湖町・藤野町・津久井町）との合併が協議され、紆余曲折をたどりながら五年程の歳月をかけ、本年四月一日神奈川県下で三番目（全国で十九番目）の政令指定都市・新相模原市が誕生した。

今後、相模原補給廠の一部返還にともない小田急多摩線の上溝駅までの延伸や、リニア新幹線の相模原市内駅設置、また二年後の平成二十四年のさがみ縦貫道の開通等、新相模原市の更なる一層の明るい展望は開け、その大いなる飛躍に期待するところである。

さて本年五月二十三日（日）天皇皇后両陛下のご臨席のもと第六十一回全国植樹祭が開催された。神奈川県としては初めての植樹祭であり、南足柄市・足柄森林公園丸太の森地区と秦野市・県立秦野戸川公園地区を会場として、二万五千人が参加した。

南足柄会場では両陛下は無花粉スギやヤマザクラの苗木を植えられた。毎年花粉症の問題は大きく取り上げられるが、中でもスギ花粉は重い症状で知られる。本県で研究開発されたこの無花粉スギは今後全国の山々に植え替えられるものと大きな期待が寄せられている。

県の四割が森林である恵みを我々県民の誇りとして、この植樹祭を契機に千年の杜をつくり、またかけがえのない地球にやさしい環境保全づくりを次世代に引き継ぎたいものである。

遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

平成二十二年 初詣 賑わう御社頭 ―ご利益満願―

平成二十二年庚寅年の元旦は、初春を寿ぐかのような初日の出を仰ぎ穏やかな新年を迎えられました。

新玉の年を祝うような天高く澄み渡った青空に背を伸ばす御神木のいちょうの前には、入りの矢門に「一陽来復」の文字で初詣の善男善女をお迎え致しました。

干支の寅に肖り家内睦まじく、家運高め、心身強く無病息災等々を念じる老若男女の皆様に幸運をお祈り申し上げます。

先ず以て皇室の弥栄と神宮の愈々の御隆昌を謹んでお祈り申し上げます。

追儺節分祭斎行

暦の上では冬から春へと移る節分の日の2月3日午後3時より恒例の節分祭が斎行されました。

節分とは、立春・立夏・立秋・立冬の前日で、季節の区切りを表し、年の初めの立春は特に重要とされています。古くより季節の変わり目には災厄が生じると言われ、今日でもその邪気を討ち祓う追儺行事が行われます。

当日は、年男年女を始め厄年の皆様が参加され、「福は内!」「鬼は外!」の威勢の良い掛け声で福豆が撒かれ、境内は大勢の参拝者の歓声で賑わいました。

尚、数多くの福物をご協賛賜りました氏子崇敬者の皆様には厚く御礼申し上げますと共に、益々の弥栄と御健勝を御祈念申し上げます。

節分祭福物奉納者芳名

・清水　亨
・小林　亮
・上島茂三郎
・大野　寛次
・福田　慶一
・根岸　信行
・JA相模原市上溝支店
・八千代銀行上溝支店
・静岡中央銀行番田支店
・東日本銀行光が丘支店
・みずほ証券町田支店
・㈲相模村上組
・亀ヶ池八幡宮職員一同

（敬称略・順不同）

神社参拝研修旅行

心のふるさと神宮を訪ねて

当八幡宮恒例の神社参拝研修旅行が、去る三月十七日、十八日に総代世話人神職計二十五名の参加で実施されました。

この研修は、神社参拝すると共に、祭典や行事また諸施設見学を通して、今後の神社護持の一助になることを目的に実施しています。

本年はお伊勢参りの旅、第一日目は夫婦岩で名高い鳥羽の二見興玉神社の参拝、翌日は外宮参拝の後、平成二十五年に行われる伊勢神宮の「第六十二回式年遷宮」に向けて五十鈴川に架かる宇治橋が着工二年の歳月をかけ昨年十一月三日に竣工致しましたので、この完成を祝い、三年後に行われる式年遷宮の無事斎行を祈念申し上げるべく参拝致しました。

香しい宇治橋を渡って神域へと足を踏み入れた参加者は、内宮の御垣内参拝を済ませ感慨もひとしおの研修旅行となりました。

恵方詣で当宮参拝

恵方とは、その年の歳徳神のいる方角で、本年の恵方（あきの方）は庚の方すなわち申酉の間で西南西を指します。そこで、今年の正月恵方参りとして東京都港区三田春日神社・葛飾区宝町八幡神社の総代氏子等が御参拝下さいました。拝殿に昇殿し、正式参拝後、宮司が講話をし、短時間でしたが懇親を深めました。

兼務神社めぐり 其の四

当八幡宮の兼務神社を順次ご紹介いたします。

七、新田稲荷神社（相模原市中央区共和1-11-18）

新田稲荷神社は宇迦御魂命を祭神とし、新田開発の鎮守として祀られた神社です。新田の開発は文政元年（1818）でしたが、最初に出願したのはそれより15年前の文化元年でした。その後文化14年に出羽の国の農民で蝦夷地の事情に通じて幕府の北方政策に尽くし八王子横山宿に住んでいた最上徳内は、ウルシ、ハゼの植付奨励に廻村したので、新田開発を出願していることを話し、幕府へ働きかけの斡旋をしてもらい翌15年現地見分により開発が許可されました。文政7年に30町歩余、同13年に36町歩余の検地を受けました。その間同9年に新田東端に16戸の農民が入植、皆地元の次、三男でした。そして新田鎮守の稲荷様は当麻街道沿いの呼わり山「いまごまさま」の隣に一反九畝の土地に勧請されましたが、同12年2月に改築され、すぎっぱいなりと敬ったと云われています。

当神社を中心とした新田の開発に幾多の障害を克服した村人が神社を心の拠りどころとし敬神の念厚く護持し、明治・大正、そして今日の不撓、不屈の精神と友愛の和を伝え新八王子道、そして横浜線の開通による原新田講中と停車場講中が併せて大野村共和部落となり、現在は更に発展し7町内会、2000戸余の氏子中となりました。神社は昭和22年4月不慮の火災に遇い、昭和27年に本殿と覆殿を、そして念願の拝殿も氏子崇敬者の格別の御奉賛にて昭和55年10月再建されました。（香川建男総代長寄稿）

八、石楯尾神社（相模原市南区磯部2137）

戦国時代の頃、当地の華道寺という所で永享年間の頃、関東管領上杉憲実の子、上杉房顕と足利成氏との戦で上杉勢が足利成氏を破りこの地を勝坂と名付けました。その後居を構えた上杉勢の残留中に東北出身者がおり懐かしみ、石楯尾神社のある山を羽黒山と称し、石楯尾神社を別名羽黒山大権現と言いました。

この石楯尾神社は今から1200年以前に神社暦を編纂したる延喜式に記録されている格式の高い神社です。寛政12年（1800）8月、社殿を再建し、天保5年（1834）2月に社殿の修復を行いました。又同年製造した釣鐘もありましたが、戦争中供出し今はありません。弘化4年（1847）に永代常夜燈、安政7年（1860）8月、秋葉山講中建立の石碑、文久元年（1861）12月手水鉢等の奉納がありました。

明治5年8月に覆殿と拝殿を改築しましたが、現存している拝殿天井の鳴き龍の絵は、明治5年に地元の中村大吉氏の描いたもので、地元でもあまり知られていませんが日光東照宮の鳴き龍とともに、全国でも珍しいものです。（中村郁夫総代長寄稿）

八幡様の花便り

亀ヶ池八幡大神様が鎮座する緑深き鎮守の杜に咲く季節の花々は、参拝者をあたたかく包みながら心やすらかにしてくれます。ここに境内に咲く花々をご紹介致します。

シモクレン

フジザクラ

シダレモモ

ショウブ

アセビ

ウメ

ツツジ

テルテハナモモ

ジンチョウゲ

アジサイ

サクラ

スイセン

東京電力㈱相模原研修センター開所式

四月十二日、相模原市中央区上溝に東京電力㈱相模原研修センターが竣工し開所式並びに安全祈願祭が斎行されました。

東京電力グループの各代表、また工事関係者など百二十名を越える参列者が集い亀ヶ池八幡大神様に、研修、訓練中に事故のないよう安全を祈願致しました。

この相模原研修センターは東京電力の技術者を養成する施設で、神事の式場には訓練用の電信柱もあり、また屋外には模擬送電塔の他、数々の訓練施設が造られました。

研修をされる方、またご関係者皆様の無事故安全を、そして技術の向上を心よりお祈り申し上げます。

健康お宝船 其の三

食べることがすべて、生への原動力に繋がると言われます。そこでこの「健康お宝船」は物を噛む歯のお話で始まりました。三回にわたり貴重な原稿をお寄せ下さいました相模原市歯科医師会特命理事の横山尚人氏に御礼を申し上げます。

歯は健康の見える窓

横山尚人氏

「目は心の窓」は有名な言葉ですが、「歯は健康の見える窓」の方はあまり知られていません。

若い年齢の頃は、体力もあり歯も丈夫で、「咀嚼吸収力」も活発です。しかし、中高年になると次第に低下してきます。しかも皮肉なことに、虫歯や歯周病のために歯の数が減り、咬む力も、咀嚼能力も低くなります。昔から、「老化はまず歯から」と言われている所以です。近年、子供の虫歯は減少していますが、成人の虫歯数は静かに増加しています。中でも四〇代から五〇代にかけて急増するデータが出ています。その増加率は六〇代、七〇代とどんどん増しています。高年齢になればなるほど健康のために歯が大切なとき、逆に噛める歯を失っているのです。歯と歯ぐきの健康のためには正しい咬み合わせが重要であることは前々号に記載しました。歯はお互いが隣接面でもたれあって美しいアーチ状に並び、上の歯と下の歯がキチンと咬み合ってそのバランスを保っているものです。一本の歯が抜けただけで歯並びでのバランスが崩れ咬み合わせが乱れます。また入歯を入れたり、冠をかぶせたからといって「一生安心」というわけではありません。治療が終っている状態であっても、ベストコンディションを保つためには定期健康診断が重要です。

健康保持のためには、歯磨きを丁寧にすること。歯の異常を感じたら早期に受診すること。そして定期検診を億劫がらないことが大切です。さらに最も大切なこと、それはこれらについて**何でも相談できる歯科医、ホームドクターを持つこと**です。さあ、今一度御自分の歯を見直してみましょう。

(医)誠真会 横山デンタル・クリニック
相模原市中央区弥栄二―九―十一
電話〇四二―七五六―二六〇一

心やすらぐクラシック音楽の響く院内とスタッフの皆さん

84才でこの歯!!元気の源

[亀ヶ池八幡宮] 公式サイトリニューアル

去る4月1日、政令指定都市相模原の誕生に合わせて、亀ヶ池八幡宮ウェブサイトをリニューアルしました。また2月よりブログも開始致しました。どちらも祭事など当八幡宮からの様々なお知らせを発信・掲載していきますのでどうぞご覧ください。

URL http://www.kamegaike.jp

神社豆知識！ 注連縄

注連縄（しめなわ）は神様がおわします場所を示すものであり、その聖の空間と我々の住む俗の世界とを分かつ意味があります。また、四方に張り巡らされている場合は、その中が清浄・神域であることを表す結界となります。

新石玉垣御奉賛者御礼報告 最終回

平成17年1月に新石玉垣が完成し、氏子崇敬者皆様に広く御協賛をお願い申し上げましたところ、皆様の赤誠溢れる御協賛を賜り、この度石玉垣への御名の刻名も無事完了致しました。ご奉賛者皆様方の一層のご健勝を祈念し、ここに謹んで御礼方々ご報告申し上げます。

- 清水　信行（上溝）
- 清水　米秋（上溝）
- 髙萩　一二（陽光台）
- ㈲オリーブの実　旬門（上溝）
- 大間　秀雄（上溝）
- ジュン・オサナイ（三浦市初声町）
- ㈲サトックス（上溝）
- 小泉　哲男（千代田）
- 戸来　颯佑（相生）
- 佐藤信太郎（陽光台）
- 多田　次夫（星が丘）
- 多田　壽子（星が丘）
- 和知　正男・道子（上溝）

（敬称略・順不同）

ご案内

平成二十二年例大祭斎行

ご創建以来連綿と絶えることなく斎行されている当八幡宮の例大祭は、左記の通り執り行いますので、お気軽にご参拝ご観覧下さいますようお知らせいたします。

日時…平成二十二年九月十八日（土）

- 例大祭（御社殿）…午前十時
- 奉納剣道（境内）…午後一時
- 神代神楽（神楽殿）…午後三時
- 余興（神楽殿）…午後六時
- お囃子（囃子やぐら）…終日（適宜）

七五三祝児無事成長祈願祭

七五三祝は、古くは平安時代より公家の間で行われ、江戸時代に入り庶民に広まったものです。当八幡宮では、十月初旬頃より十一月末までお子様の健やかな成長を願って七五三祈願祭を斎行いたします。なお、九月に貸衣装・美容・着付・写真の展示予約会を計画しておりますので祈願祭同様ご希望の方は当八幡宮社務所へお問い合わせ下さい。

- 祈祷受付…八月より
- 祈祷時期…十月より十一月末
- 写真・美容・衣裳・着付の受付　八月より

平成二十三年正月祈願祭受付

〝一年の計は元旦にあり〟人は皆新年を迎えると、希望や夢をふくらませ、神社に初詣されています。

当八幡宮では、無料大駐車場を完備し、初詣の皆様をお迎えしています。

家内安全・厄除け・商売繁盛・交通安全等のご祈祷予約を十一月より受付けいたしますので、当八幡宮社務所へご連絡下さい。

※お申し込み・お問い合わせは当八幡宮社務所（電）042-751-1138へお願いいたします。